

# 平成 27 年度社会福祉法人新里紫桐会事業報告書

はじめに

社会福祉法人新里紫桐会は、平成 4 年 7 月に社会福祉法人の設立認可を受け、今年で 24 年目を迎えました。平成 5 年 4 月に特別養護老人ホーム紫桐苑を開設し、福祉サービスを必要とされる方々が、住み慣れた地域や家庭でその人らしい生きがいある生活が実現できるよう人権と尊厳を尊重し、利用者本位のサービスに徹し、地域において必要な福祉サービスを総合的に提供できるように努め、介護保険事業を 9 事業、障害福祉事業を 1 事業、宮古市より委託の 5 事業を運営してまいりました。

事業面では、年度末の利用延べ人数は、48,702 人（介護保険対象者 44,969 人、障害支援対象者 3,733 人）で、前年度より 84 人の増加となっております。

経営状況については、全体の事業利用収入は、504,953,127 円となり前年度に比べ 15,461,033 円のマイナス決算となりました。また、各事業の事業活動収支差額は、紫桐苑（短期入所事業を含む）は、3,142,071 円の減、桐の花は、4,471,753 円の減、デイサービスセンターは、10,098,928 円の減、あすなろは、9,381,023 円の増、工房まんさくは、4,419,064 円の増という結果になりました。

高齢化が急速に進む今日、福祉事業をとりまく情勢は日々変化しており、厳しい経営状況が続いていますが、顧客満足度のアップを図ることが施設運営の基本であることを認識し、今後とも、経費の節減を図るなかで、職員の待遇改善、優秀な人材の確保、育成に努めるとともに、利用者ニーズに適切に対応し地域の福祉向上に努めたいと考えております。

## 1 法人の概況

### (1) 設立年月日

平成 4 年 7 月 24 日

### (2) 主たる事業所の住所

岩手県宮古市茂市第 1 地割 115 番地 1

### (3) 定款に定める目的

本会は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、社会福祉事業を行う。

### (4) 定款に定める事業等内容

#### ①第一種社会福祉事業

- ・ 特別養護老人ホーム紫桐苑（定員 50 名）
- ・ 地域密着型特別養護老人ホーム桐の花（定員 29 名）

#### ②第二種社会福祉事業

- ・ 新里デイサービスセンター（定員 25 名）
- ・ 紫桐苑短期入所生活介護事業所（定員 10 名）
- ・ 新里紫桐会居宅介護支援事業所
- ・ 小規模多機能型居宅介護事業所あすなろ（登録定員 29 名）
- ・ 工房まんさく就労継続支援（B型）事業所（定員 20 名）

#### ③宮古市受託事業

- ・ 配食サービス
- ・ 介護予防型通所支援事業
- ・ 介護予防型支援業務
- ・ 訪問調査業務
- ・ 宮古市地域包括支援センター総合相談支援業務

(5) 役員、評議員に関する事項

①役員、評議員の任期

平成 26 年 7 月 24 日から平成 28 年 7 月 23 日まで

②役員名簿

役 職	氏 名	備 考
理 事 長	根 木 整 藏	
理 事	和 美 晋	理事長職務代理
理 事	藤 村 政 利	
理 事	赤 松 五十松	桐の花運営推進会議委員
理 事	袈 岩 昭 雄	あすなろ運営推進会議委員
理 事	三 浦 雅 裕	施設長
監 事	関 沢 敏	桐の花運営推進会議委員
監 事	岸 忍	第三者委員・入所検討委員
合 計	8 名	

③評議員名簿

役 職	氏 名	備 考
評 議 員	菊 地 嘉 平	
評 議 員	後 藤 十四男	第三者委員・入所検討委員
評 議 員	久保田 義 明	
評 議 員	明 石 克 之	桐の花運営推進会議委員
評 議 員	佐々木 哲 也	
評 議 員	野 崎 正	あすなろ運営推進会議委員
評 議 員	舛 澤 實登子	
評 議 員	山 口 忠 幸	
評 議 員	野 崎 盛 夫	
評 議 員	根 木 整 藏	理事長
評 議 員	荒 矢 一 枝	
評 議 員	久 保 正 吉	あすなろ運営推進会議委員
評 議 員	越 田 由美子	
合 計	13 名	

(6) 職員に関する事項

①職員数

区 分	正規職員	臨時職員	パート職員	平成 27 年度	平成 26 年度	比較増減
紫 桐 苑	24	15	3	42	42	0
桐 の 花	11	4	4	19	19	0
新里デイサービス	2	4	2	8	10	△2
居宅介護支援事業所	2	1	0	3	2	1
あすなろ	6	6	3	15	17	△2
工房まんさく	3	2	0	5	5	0
合 計	50	32	12	92	95	△3

②職員採用・退職状況

区 分	正規職員	臨時職員	パート職員	合 計
採 用	2	8	2	12
退 職	6	3	4	13

(7) 寄付金・寄贈物品に関する事項

寄付者	金額・物品名
郵便局長夫人会下西部会	タオル 500 枚

2 役員会・評議員会・組織運営に関する事項

(1) 理事会の開催状況

回	開催日	理事出席数	監事出席数	場 所
第1回	平成27年 5月29日	6	1	桐の花会議室
第2回	平成27年 8月25日	6	2	桐の花会議室
第3回	平成27年12月22日	6	2	桐の花会議室
第4回	平成28年 1月25日	6	2	桐の花会議室
第5回	平成28年 3月30日	6	2	桐の花会議室

(2) 評議員会の開催状況

回	開催日	評議員出席数	監事出席数	場 所
第1回	平成27年 5月27日	9	1	桐の花会議室
第2回	平成27年12月21日	12	-	桐の花会議室
第3回	平成28年 1月23日	11	-	桐の花会議室
第4回	平成28年 3月28日	12	-	桐の花会議室

(3) 監査の実施状況

①法人監事の監査状況

回	開催日	理事出席数	監事出席数	場 所
第1回	平成27年 5月22日	2名	2名	紫桐苑理事長室
第2回	平成27年 9月 7日	2名	2名	紫桐苑理事長室
第3回	平成28年 2月29日	2名	2名	紫桐苑理事長室
第4回	平成28年 3月24日	2名	2名	紫桐苑理事長室

②所轄庁の監査状況

ア、岩手県（宮古保健福祉環境センター）

区 分	実施日	監査内容	対象事業所
管理課	平成28年 2月 9日	集団指導	介護保険対象事業所
福祉課	平成28年 1月27日	集団指導	障害福祉サービス対象事業所
宮古保健所	平成28年 2月 2日	給食室立入点検	特別養護老人ホーム紫桐苑

イ、宮古市保健福祉部

区 分	実施日	監査内容	対象事業所
福祉課	平成27年11月20日	実地指導	社会福祉法人新里紫桐会
	平成28年 2月 8日	実地指導	社会福祉法人新里紫桐会
介護保険課	平成27年 8月28日	実地指導	地域密着型特別養護老人ホーム桐の花
	平成27年11月13日	集団指導	地域密着型サービス対象事業所

(4) 苦情解決事業に関する事項

①苦情解決事業連絡会議の開催状況

回	開催日	職員出席数	第三者委員出席数	場 所
第1回	平成27年 4月27日	7名	2名	桐の花会議室
第2回	平成27年 9月25日	6名	2名	桐の花会議室

②「利用者の声を聞く取り組み」苦情相談会の開催状況

回	開催日	対象事業所	聞取り者
第1回	平成27年10月23日	地域密着型特別養護老人ホーム桐の花	第三者委員 1名
		工房まんさく就労継続支援（B型）事業所	
第2回	平成27年10月28日	特別養護老人ホーム紫桐苑	第三者委員 1名
		新里デイサービスセンター	
		小規模多機能型居宅介護事業所あすなろ	

(5) 重点事項に関すること

①経営基盤の安定

財政・経営基盤の強化及び事業運営の安定化を図るため、会計事務所の定期訪問指導により、適正な会計処理、確実な財産管理に努めるよう改善を図った。

情報提供の充実化においては、法人間では、利用者やその家族、職員、役員・評議員会等

へ必要な情報提供など行った。また、ホームページに財務諸表等法人の事業経営状況の情報開示を行ってきたが、今後は必要な情報を提供できるように随時見直しを行い、より充実させていくことが必要である。

#### ②サービス提供の充実

利用者及び家族の視点に立つことを常に意識して、人権の尊重・個人の尊厳に配慮しながら、必要なサービスが提供できるよう努めた。

#### ③地域福祉の拠点としての役割とその使命

各関係機関・団体との相互協力を随時行い連携の強化・維持を図り、また、地域行事や会合等に参加し、地域とのつながりを大切にしながら連携を図ってきた。

地域貢献活動については、社会福祉法人等による生活困難者に対する利用者負担軽減事業を実施し、デイサービス利用者 116 名、短期入所利用者 21 名、計 137 名に対して利用者負担軽減額の内 290,919 円を法人が負担し軽減を行った。

#### ④人材確保とその育成

人材の確保については、退職者数 13 名に対し採用者数 12 名となりました。平成 26 年度に引き続き採用者数が退職者数を下回りましたが、職員間の連携を図りながらサービスの提供をしてきました。介護サービスの提供体制を充実させていくためにも、法人内の課題解決を図りつつ、人材の確保及び育成により一層の努力が必要である。

職員の育成については、日々の業務においてより良いサービス提供のための各種委員会・会議を通じた取り組みを行ってきた。さらに外部研修への参加や内部研修会の実施、自主研修や資格取得のための協力など行い、職員の資質向上の強化を図った。

#### ⑤中長期計画の策定

十分に意見をまとめる機会が持てなかったことから、引き続き検討を重ね中長期期計画の策定に取り組むこととします。

#### ⑥危機管理体制の強化について

宮古市防災士養成研修講座に職員 5 名参加、防災士の資格を取得した。今後は、防災士資格を取得した職員を中心に、より実践的で実効性の高い防災計画の策定や防災訓練など防災対策の強化に取り組んでいくことが必要である。

### (6) 施設整備に関すること

#### ①特別養護老人ホーム紫桐苑暖房給湯用ヒーター更新工事

暖房給湯用ヒーターの破損により更新工事を行った。

【総事業費】 5,292,000 円

【施工業者】 株式会社太平エンジニアリング

【完成年月日】 平成 28 年 3 月 31 日

#### ②特別養護老人ホーム紫桐苑浴室給湯設備設置工事及び同紫桐苑厨房、新里デイサービスセンター浴室等給湯設備設置工事

暖房給湯用ヒーターの破損に伴い、浴室・厨房をガス給湯器に替える工事を行った。

【総事業費】 4,298,400 円

【施工業者】 株式会社角登商店

【完成年月日】 平成 28 年 2 月 23 日

#### ③特別養護老人ホーム紫桐苑介護用ベッド更新

介護ベッドの老朽化により電動ベッドへの更新を行った。

【総事業費】 4,943,980 円

【施工業者】 株式会社サンメディカル

【完成年月日】 平成 28 年 3 月 24 日

### 3 年間事業報告

年月日	概況
平成 27 年	
4 月 1 日	入職式・辞令交付式、
23 日	運営連絡会議
24 日	宮古港開港 400 周年記念事業開会式（根木理事長）
25 日	社会福祉法人若竹会創立 40 周年記念式典祝賀会（和美理事）
27 日	第 1 回苦情解決事業連絡会、第 1 回入所検討委員会
5 月 22 日	第 1 回出納調査、平成 26 年度会計決算監査
27 日	第 1 回評議員会
28 日	運営連絡会議
29 日	第 1 回理事会
6 月 24 日	運営連絡会議
7 月 2 日	第 1 回職員健康診断
23 日	運営連絡会議
8 月 25 日	第 2 回理事会
27 日	運営連絡会議
9 月 1 日	中途採用者辞令交付式
3 日	全国老人福祉協議会勤続 15 年以上感謝状授与（川崎賢一、村上美香）
7 日	第 2 回出納調査
24 日	運営連絡会議
25 日	第 2 回苦情解決事業連絡会、第 2 回入所検討委員会
10 月 22 日	運営連絡会議
23 日	第 1 回「利用者の声を聞く取り組み」苦情相談会（桐の花・まんさく）
28 日	第 2 回「利用者の声を聞く取り組み」苦情相談会（紫桐苑・新里デイ・あすなろ）
11 月 11 日	全国老人福祉協議会勤続 20 年以上感謝状授与（佐々木孝子、花巻秋子）
20 日	宮古市保健福祉部福祉課「社会福祉法人実地指導」
26 日	運営連絡会議
12 月 21 日	第 2 回評議員会
22 日	第 3 回理事会
24 日	運営連絡会議
平成 28 年	
1 月 9 日	新里地区新年交賀会（役職員）
12 日	暖房給湯用ヒーター更新工事、浴室等給湯設備設置工事入札会
23 日	第 3 回評議員会
25 日	第 4 回理事会
28 日	運営連絡会議
2 月 1 日	中途採用辞令交付式
2 日	宮古保健所「特定給食施設等立入検査」
8 日	宮古市保健福祉部福祉課「社会福祉法人実地指導」
9 日	宮古保健福祉環境センター管理課「宮古地域介護保険施設等集団指導」
18 日	宮古市福祉課「社会福祉法人職員等研修会」（佐々内主任事務員、舘野事務員）
25 日	運営連絡会議
29 日	第 3 回出納調査
3 月 8 日	社会福祉法人経営者協議会会長表彰授与（藤村理事）
20 日	和井内小学校閉校式典（三浦施設長）
21 日	茂市小学校閉校式典（根木理事長）
24 日	第 4 回出納調査、運営連絡会議
27 日	国道 340 号整備促進住民大会（在家介護支援専門員）
28 日	第 4 回評議員会
30 日	第 5 回理事会

## 平成 27 年度 特別養護老人ホーム紫桐苑 事業報告 (紫桐苑短期入所生活介護事業含)

特別養護老人ホーム紫桐苑においては、入所者一人ひとりの人権と生活を尊重し、「自分らしい生活」を実現するための生活援助が施設サービスの基本と考えて取り組んだ。

また、事業の実施にあたっては、地域における介護施設としての存在と役割を認識し、基本的な援助の水準を常に維持すること、地域や地域住民との開かれた関係性を築くこと、福祉人材の育成に寄与することを総合的に果たせることを目指して取り組みを進めてきた。

### 1 事業の概要

#### (1) 事業種類

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

短期入所生活介護

介護予防短期入所生活介護

#### (2) 事業規模

特別養護老人ホーム定員： 50 名

短期入所生活介護定員： 10 名

### 2 事業の実施状況

#### (1) 生活援助

##### ①食事

食は健康と楽しみという重要な位置を占めることから、嗜好調査を実施して、より満足いただける食事内容への工夫や個々の状況に応じた栄養管理をもって、健康に過ごせるよう努めてきた。また、安全な食事を提供するために調理環境の衛生保持に努め、調理職員の細菌検査、厨房内消毒を月 1 回実施した。

##### ②入浴

入浴回数は、原則として一人につき週 2 回行い、更に本人の希望により入浴できるよう月曜日から土曜日まで入浴を実施した。また、体調の都合で入浴できない場合においては、清拭を行うことで衛生保持に努めた。

##### ③排泄介助

おむつ交換は、定時交換 4 回及び随時の個別確認、ケアコール対応により実施した。

##### ④自分らしい生活

一人ひとりの生活のリズムを大切にし、本人の意思を確認しながら支援に努め、また、利用者が自由で自分らしい生活が送れるよう、声かけや行いたいことへのサポートをするよう努めた。

##### ⑤施設内行事・余暇活動

施設における人と人のふれあいの場として、毎月の誕生会、節句や季節に応じた諸行事を実施した。また、意向調査を実施して、利用者の意向を踏まえながら身体機能の維持増進に役立つ趣味活動の内容を考え、週 2 回のペースで活動を実施した。

##### ⑥身体拘束ゼロ

身体拘束から起こるリスクの重大さを知り、「身体拘束を行わないのは当然である」という認識のもとケアに取り組むことができた。また、やむを得ず身体拘束を行うケースにおいては、定期的な検証と経過観察をもって対応することに努めた。

##### ⑦事故防止・リスク軽減

施設で起こりうる事故を未然に防ぐための定期的な会議をもち、また、発生した事象については再発防止のための早急な対策会議をもって、利用者の事故・リスク軽減に取り組んだ。

#### (2) 個別支援の充実

アセスメントから得た重点的なケアや個別性のあるサービスを提供できるように、定期的（半年ごと）なケア会議をもち、入所者家族と多職種間の連携をもって取り組んだ。

#### (3) 健康管理

入所者一人ひとりが心身共に健康で充実した日常生活を送れるよう、定期バイタルの測定、嘱託医師による回診（週 1 回）、健康検診（年 1 回）を実施して健康管理を行った。また、

インフルエンザの流行期は、入所者・職員に予防接種を実施、面会者に対してもうがい、手洗いの励行等を強化し、更にマスクの着用をもって感染予防に努めた（利用者の罹患者はなし）。

実施日	健康管理概況
7月1、8、15、22日、 9月2日	入所者健康診断実施（50名） 医療機関：宮古市国保新里診療所
11月4、11、18、25日、 12月2日	入所者インフルエンザ予防接種実施（49名） 医療機関：宮古市国保新里診療所 ※職員インフルエンザ予防接種実施 11月4日～25日

(4) 口腔ケアの推進

入所者個々の口腔内状態の維持及び向上、誤嚥性肺炎予防・感染症予防ならびに口臭を防止することを目的とし、新里診療所歯科との連携をもって、食前・食後の口腔ケアに努めた。連携して取り組んだ内容としては、入所者全員の歯科検診（年1回）、歯科衛生士の個別指導による口腔ケア（週1回）を実施した。

(5) 生活環境への配慮・衛生管理

各種介護器具の安全点検を定期的実施し、より安全に生活できる環境の整備を図った。また、施設内の装飾や掲示物の工夫をもって、楽しみある景観作りに努めた。施設内の除菌・脱臭のため、オゾン除菌脱臭機による、くん蒸消毒を月1回実施した。

実施日	介護用品整備概要
3月24日（納品）	介護用電動ベッドの更新（18台）

(6) 会議

施設の管理・運営や援助の方針の統一化を図るため、運営連絡会議、苦情解決事業連絡会議、各部署会議、サービス担当者会議等を開催した。また、法人各事業所の職員で安全管理委員会、広報委員会、職員研修委員会を編成し、災害対策、広報、職員教育を法人全体で取り組んだ。

(7) 専門組織及びチーム活動

各職種の代表の参加により入所者の生活援助の向上と充実を図るため、入所検討委員会、事故防止検討委員会、感染症管理委員会、身体拘束廃止委員会、口腔ケア計画委員会等の活動を展開した。

また、介護係における諸課題の解決、グループケアの推進を図るため、業務・処遇改善会議、口腔ケア班、介護用品・備品班、環境改善班、ヒヤリハット・業務改善班、行事・レク班のチームでの活動を展開した。

(8) 職員研修

援助技術の向上や援助等に関する基礎知識の習得のため、施設内での内部勉強会を延べ9回実施した。また、外部で開催された研修会へ40回、延べ71名が参加した。

実施日	内部勉強会概要
6月25日	第1回スキルアップ勉強会「個人情報取扱いと守秘義務・プライバシー保護」
7月3日	介護実技勉強会「オムツのあて方」
8月27日	第2回スキルアップ勉強会「障がい者への理解」
10月2日	救命救急講習会「応急手当講習」
10月21日	感染症の予防及びまん延防止のための研修「ノロウイルスについて、嘔吐物の処理について」
11月5日	第3回スキルアップ勉強会「認知症（介護）について」
12月17日	第4回スキルアップ勉強会「認知症介護を考える」
2月25日	介護実技勉強会「車イス・シーティング ベッド上のポジショニングの勉強会」
3月17日	第5回スキルアップ勉強会「利用者本位のサービスを目指すために」

(9) 防災対策

火災予防のため、また、災害発生時に入所者と職員が一体となって行動が取れるように、防火・防災対策を計画し、夜間を想定した消防訓練を実施した。

(10) 交流・ボランティア及び実習の受入れ

地域住民とのふれあいや交流の機会がもてるように努めた。具体的には、新里保育所との定期的な交流会、新里地区の小中学校との交流、慰問者の受入れ、職場体験の受入れ、地域行事への参加や見学等を行なった。

実施日	概要
5月24日	清流オリンピック見学(茂市小学校)
6月2日	新里保育所交流会(紫桐苑)
7月2日	新里保育所交流会(紫桐苑)
7月31日	納涼祭開催(紫桐苑)
8月1日	青山学院女子短期大学ハンドベル演奏(紫桐苑)
8月5,6日	新里中学校職業体験受入(紫桐苑)
8月23日	茂市熊野神社例大祭神輿来苑(紫桐苑)
9月15日	新里保育所敬老会参加(紫桐苑)
9月22日	仙台すずめ踊り来苑(紫桐苑)
10月8日	新里保育所交流会(桐の花)
10月17日	茂市小学校学習発表会見学(茂市小学校)
10月18日	新里まつり見学(新里まつり会場)
11月19日	和井内小学校交流会(紫桐苑)
12月13日	新里保育所交流会(紫桐苑)
3月14日	青山学院女子短期大学ハンドベル演奏(紫桐苑)

3 利用者の状況

(1) 紫桐苑長期入所者

①年齢状況

	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳～	計
男	0	2	1	0	4	1	2	1	0	11
女	0	0	0	3	6	14	12	3	0	38
計	0	2	1	3	10	15	14	4	0	49
比率	0.0	4.1	2.0	6.1	20.4	30.6	28.6	8.2	0.0	100.0
平均男性 81.9歳		平均女性 88.3歳		全体平均 86.9歳			最高 99歳		最低 65歳	

②在所期間状況

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上	計
男	2	4	2	3	0	0	11
女	4	16	8	5	3	2	38
計	6	20	10	8	3	2	49
比率	12.2	40.8	20.4	16.3	6.1	4.0	100.0
平均男性 3年5ヶ月		平均女性 4年9ヶ月		全体平均 4年6ヶ月			
最高男性 7年10ヶ月		最高女性 22年11ヶ月					



③入退所状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規入所	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	女	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	4
退所者	男	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
	女	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	4
月末 在 所 者 数	男	11	11	11	11	11	10	10	10	9	9	10	11	—
	女	39	39	39	39	39	39	40	39	38	38	37	38	—
	計	50	50	50	50	50	49	50	49	47	47	47	49	—
退所者の平均在所期間 5年6ヶ月														

④新規入所者の入所前状況

	男	女	計
自 宅	0	3	3
医療機関	1	1	2
老 健 他	1	0	1
合 計	2	4	6

⑤退所者の退所後状況

	男	女	計
死 亡	2	4	6
長期入院	0	0	0
合 計	2	4	6

⑥介護度区分状況

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男	0	0	0	4	7	11
女	0	0	3	18	17	38
計	0	0	3	22	24	49
平均男性 4.6      平均女性 4.4      全体平均 4.4						

(2) 紫桐苑短期利用者

①年齢状況

	利用者数	最高齢	最年少	平均
男	14	104歳	67歳	86.2歳
女	50	96歳	73歳	87.6歳
計	64	—	—	87.3歳

②利用状況

実施日数	366 日
利用延人数	2,563 人
1日あたりの利用者数	7.0 人

③介護度区分状況

	男	女	計
自 立	0	0	0
要支援1	0	0	0
要支援2	0	0	0
要介護1	1	6	7
要介護2	5	16	21
要介護3	4	14	18
要介護4	2	11	13
要介護5	2	3	5
計	14	50	64

## 平成 27 年度 地域密着型特別養護老人ホーム桐の花事業報告

- ・地域社会に開かれ、地域に根ざした施設の運営を行うべく取り組んだ。
- ・入居者が望む多様な援助を提供する個別ケアの実践に努めた。
- ・住み慣れた地域でこれまでの生活を継続できるよう支援した。

### 1 事業の概要

#### (1) 事業種類

ユニット型地域密着型介護老人福祉施設

#### (2) 事業規模

定員 29 名 ユニット区分 [こもれび 10 名、ぬくもり 9 名、やすらぎ 10 名]

### 2 事業の実施状況

#### (1) 生活援助

##### ①食事

食は健康と楽しみという重要な位置を占めるものであることから、楽しんで食事ができ、かつ、個々の状況に応じた栄養管理をもって、より健康に過ごせるよう努めてきた。また、ユニット内でご飯・味噌汁を作ることにより、食事を準備する音や匂いで家庭的な雰囲気を出したり、入居者に盛り付けや下膳の手伝いをさせていただくことにより、入居者の生きがいの創出ができるよう取り組んだ。

##### ②入浴

入浴回数は一人につき週 2 回行い、さらに本人の希望により入浴できるよう毎日入浴を実施した。また、個浴での対応を基本として、プライバシーに配慮しゆっくり入浴を楽しんでもらえるよう心掛けた。個浴での対応が困難な方においては特別浴にて対応し、移乗の際は 2 人介助で対応するなど、安全に安心して入浴が出来る様に努めた。体調不良などで入浴できない時は清拭を行う事で衛生保持に努めた。

##### ③排泄介助

他事業所との連携を図りながら、排泄リズムの把握をし、一人一人に合った排泄介助の検討を行い、入居者がより快適に過ごすことが出来る様に努めた。

##### ④自分らしい生活

一人ひとりの生活のリズムを大切に、本人の意思を確認しながら支援に努めた。また、入居者が自由で自分らしい生活が送れるように、声掛けや行いたいことのサポートをするよう努めた。

##### ⑤施設内行事・余暇活動

人と人とのふれあいの場として、喫茶店『こびり』の営業、ユニット毎に誕生会、余暇活動として節句や季節に応じた諸活動を行った。また、趣味と身体機能の維持増進を図ることを目的に、ユニット毎に体操や個別のレクリエーション活動を行った。

##### ⑥身体拘束ゼロ

身体拘束から起こるリスクの重大さを知り、「身体拘束を行わないのは当然である」という認識のもとケアに取り組んだ。また、やむを得ず身体拘束を行うケースにおいては、定期的な検証と経過観察を持って対応することに努めた。

#### (2) 個別支援の充実

アセスメントから得た重点的なケアや個別性のあるサービスを提供できるように、定期的(3ヶ月～半年毎)なケア会議をもち、入居者家族と多業種間の連携をもって取り組んできた。

#### (3) 健康管理

入居者一人ひとりが心身共に健康で充実した日常生活が送れるよう、定期バイタルの測定、嘱託医師による回診(週 1 回)、健康検診(年 1 回)、歯科検診(年 1 回)、口腔ケア指導(週 1 回)を実施して健康管理を行った。また、インフルエンザの流行時は、入居者・職員に予防接種を実施、面会者に対してもうがい、手洗いの励行等を強化し、さらにマスクの着用をもって感染予防に努めた。

#### (4) 生活環境への配慮・衛生管理

産業医の巡視の結果をもとに、問題点の改善・整備を図った。また、入居者が寛ぎ、交流出来る空間としてセミパブリックスペースを整備した他、掲示物の工夫をもって、楽しみあ

る景観作りに努めた。

(5) 会議

施設の管理・運営や援助の方針の統一化を図るため、運営連絡会議、苦情解決事業連絡会議、ユニット会議、フロア会議、サービス担当者会議等を開催した。また、地域に開かれた施設運営とサービスの質の確保を目的に、地域代表者等を委員とし、運営内容について地域より広く意見・助言を求め、運営推進会議を開催した。

(6) 専門組織

本体施設である紫桐苑と連携し、各職種の代表の参加により入居者の生活援助の向上と充実を図るため、サービス向上委員会、入所検討委員会、事故防止検討委員会、感染症管理委員会、身体拘束廃止委員会等の活動を展開した。

(7) 職員研修

援助技術の向上や援助等に関する基礎知識の習得のため、施設内での内部勉強会を延べ10回実施した。また、外部で開催された研修会へ10回、延べ54名が参加した。

(8) 防災対策

火災予防のため、また、災害発生時に入居者と職員が一体となって行動が取れるように、防火・防災対策を計画し、各入居者の避難方法についても検討を行い、個別避難マニュアルを作成した。日中を想定した避難訓練、スモークマシーンを使用した防災体験・防災学習、通報・消火訓練等の部分訓練を実施した。

(9) 交流・ボランティアの受入れ

地域行事への参加や新里保育所との交流会を行い、地域の方々との交流の機会が持てる様努めた。また、地域開放の取り組みとして新里地区民生委員児童委員定例会議の場として会議室を開放する取り組みも行った。

(10) 行事等

月	内 容
4	お花見ドライブ、第1回運営推進会議
5	桐の花菜園苗植え、清流オリンピック見学（茂市地区）、桐の花通信発行
6	おやつ作りクラブ、消防設備点検、第2回運営推進会議、自衛消防訓練（部分訓練）
7	喫茶店『こびり』営業、納涼祭、桐の花通信発行
8	ミニ縁日、迎え火・花火大会、喫茶店『こびり』営業、新里中職業体験、第3回運営推進会議、平成27年度地域密着型サービス事業所実地指導
9	桐の花敬老会、喫茶店『こびり』営業、桐の花通信発行
10	新里保育所交流会、茂市小学校学習発表会見学、新里祭り見学、喫茶店『こびり』営業、第4回運営推進会議
11	喫茶店『こびり』営業、地域密着型サービス事業所集団指導、桐の花通信発行
12	喫茶店『こびり』営業、フラダンス訪問、クリスマス会食会、防火設備点検、第5回運営推進会議
1	水木団子作り、喫茶店『こびり』営業、自衛消防訓練（部分訓練）
2	節分・豆まき、喫茶店『こびり』営業、第6回運営推進会議、桐の花通信発行
3	ひな祭り・おやつ作り、喫茶店『こびり』営業、自衛消防訓練（日中想定避難訓練）

### 3 利用者の状況

#### (1) 年齢状況

	～64	65～ 69	70～ 74	75～ 79	80～ 84	85～ 89	90～ 94	95～ 99	100～	計
男	0	0	1	2	1	2	1	2	0	10
女	0	0	0	1	2	6	9	2	0	19
計	0	0	1	3	3	8	10	4	0	29
比率(%)	0.0	0.0	3.4	10.3	10.3	27.6	34.5	13.8	0.0	100.0
平均年齢〔男性 84.6 歳、女性 89.3 歳、全体 87.8 歳〕 最高年齢 96 歳 最低年齢 71 歳										

#### (2) 在所期間状況

	1 年未満	1 年以上 3 年未満	3 年以上 10 年未満	計
男	1	2	6	9
女	3	3	14	20
計	4	5	20	29
比率(%)	13.8	17.2	69.0	100.0
平均在所期間〔男性 2 年 6 ヶ月、女性 2 年 6 ヶ月、全体 2 年 6 ヶ月〕 最高男性 3 年 最高女性 3 年				

#### (3) 入退所状況

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規 入所者	男	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	女	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3
退所者	男	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2
	女	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
月末 在所者数	男	10	10	10	10	10	9	10	10	10	9	9	9	—
	女	18	18	18	19	19	19	19	19	19	19	19	20	—
	計	28	28	28	29	29	28	29	29	29	28	28	29	—
退所者の平均在所者数〔 2 年 5 ヶ月 〕														

#### (4) 入所前の状況

	男	女	計
自宅	4	15	19
医療機関	1	0	1
老健他	4	5	9
計	9	20	29

## (5) 退所後の状況

	男	女	計
死亡	2	2	4
長期入院	0	0	0
在宅復帰	0	0	0
計	2	2	4

## (6) 介護区分状況

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男	0	1	2	2	4	9
女	0	1	8	5	6	20
計	0	2	10	7	10	29
比率 (%)	0.0	6.9	34.5	24.1	34.5	100.0
平均介護度 [ 男性 4.0、女性 3.8、全体 3.9 ]						

## (7) 面会状況

区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
家族	78	100	63	109	119	106	95	100	98	76	48	75	1,067
その他	12	11	5	8	11	9	10	14	12	16	3	5	116
合計	90	111	68	117	130	115	105	114	110	92	51	80	1,183

## (8) 要望・苦情・相談状況

区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
要望	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
苦情	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
相談	5	3	2	3	3	1	1	1	3	3	3	0	28
合計	6	3	2	3	3	2	1	1	3	3	3	0	30

## 平成 27 年度 新里デイサービスセンター 事業報告

新里デイサービスセンターは、利用者の意思及び人格を尊重し、かつ、その方の状態に応じた必要な支援（食事・入浴・レクリエーション等）及び機能訓練等のサービス提供に努めた。そのことを通して、利用者においては、心身機能の維持増進、また、家族等の介護者にとっては身体的・精神的な軽減が図れることを目指して取り組んだ。

### 1 事業の概要

#### (1) 事業種類

指定通所介護事業

指定介護予防通所介護事業

宮古市介護予防型通所支援事業（宮古市受託事業）

#### (2) 事業規模

利用定員：25 名

### 2 事業の実施状況

#### (1) 生活援助

##### ① 食事

利用者を楽しんで食事をしていただけるよう雰囲気作りに配慮し、また、栄養バランスと個別の状態に応じた食事内容の提供に努めた。利用者の飲み込む機能の維持、向上への取り組みとして食事前に口腔体操を実施した。

##### ② 入浴

自宅での入浴が困難な利用者もいるため、必要に応じた介助を行い、また、着替等の衣類や持ち物に配慮して気持ちよく入浴を楽しんでいただけるように努めた。また、健康状態の確認をもって安全面への配慮を徹底した。

##### ③ 行事・余暇活動

利用者に 1 日を楽しく過ごしていただけるよう、昼食後には余暇活動を実施した。活動内容としては、趣味的なことから、リハビリ体操や創作活動など、日常生活動作の機能維持を図る内容となるよう工夫を施した。また、季節ごとの主な行事として春には花見、秋には紅葉を楽しむドライブで外出する機会をもった。また、運動会、敬老会、忘新年会を企画し、利用者を楽しんでいただいた。

#### (2) 送迎体制

利用者の送迎においては、体調確認やシートベルトの着用を徹底し、運転においては交通ルールの順守と安全運転の励行を徹底した。

#### (3) 健康管理・安全への配慮

事業所へ到着後には、利用者の健康チェック（体温・血圧測定、体調や服薬の確認）を行い、日々の健康管理と家族や介護者との連携をもって、皮膚処置や医療的なケアを必要とされる方の対応に努めた。また、事業所内での転倒防止等、事故へのリスクを軽減するため、職員間の連携や見守りへの配慮等を心がけた。

#### (4) 会議

サービス内容と業務内容の見直し及び改善を図るため、定期的な所内会議をもって検証し、その内容を実行した。また、サービス担当者会議をもって利用者の状態把握とニーズを分析し、その方へ必要なサービスの提供がなせるように心がけた。

#### (5) 職員研修

法人内で実施される職員勉強会への参加、外部への研修会参加をもって職員の資質向上とスキルアップを目指した。（認知症介護実践者研修修了者 1 名）

#### (6) 衛生管理

定期的な浴槽の水質検査、空間の除菌・脱臭のためのくん蒸消毒を実施し、また、業者に依頼している衛生害虫駆除をもって事業所内の感染症対策、衛生管理に日頃から努めた。

#### (7) 防災対策

防災対策として、火災発生を想定した避難訓練を実施し、有事における職員の対応と利用者の避難誘導等の訓練を行った。

(8) 地域交流

紫桐苑と合同で実施した新里保育所との定期交流会や新里中学校の職場体験受入れを通じて世代間の交流が促進できた。また、デイサービス・紫桐苑・桐の花で実施する諸行事を通じて、顔なじみの関係だった方々の交流がもてるよう、事業所間で連携して取り組んだ。

3 利用者の状況

(1) 登録者の状況

①年齢状況

	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	計
男	0	3	2	2	3	5	5	20
女	0	1	0	4	19	17	9	50
計	0	4	2	6	22	22	14	70

男性：最高 94 歳 最低 67 歳      女性：最高 95 歳 最低 66 歳

②介護度区分状況

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男	0	0	7	8	3	2	0	20
女	0	4	11	19	10	6	0	50
計	0	4	18	27	13	8	0	70

③地域別利用状況

茂市;13名(19%)      暮目;18名(26%)      腹帯;4名(5%)  
刈屋;21名(30%)      和井内;14名(20%)

(2) 利用者数

①通所介護（実施日数：312日）

年間延べ利用者数	4,609名
1日平均利用者数	15.4名

②介護予防通所介護（実施日数：109日）

年間延べ利用者数	156名
1日平均利用者数	1.7名

③宮古市介護予防型通所支援事業（実施日数：52日）

年間延べ利用者数	121名
1日平均利用者数	2.3名

## 平成 27 年度小規模多機能型居宅介護事業所あすなろ事業報告

小規模多機能型居宅介護事業所あすなろは、「ご利用者様のために」「地域のために」「チームあすなろ」を理念に掲げ、その理念の実現に向けて事業を展開した。

事業の実施にあたっては、利用者がその地域や自宅において、可能なかぎり日常生活を営むことができるよう適正なサービスを提供することを目的とし、また地域社会の一員として、地域住民、関係機関との連携を図った。

### 1 事業の概要

#### (1) 事業種類

- ①小規模多機能型居宅介護事業
- ②介護予防小規模多機能型居宅介護事業

#### (2) 事業規模

- ①登録定員 29 名
- ②泊りサービス定員 6 名
- ③通いサービス定員 15 名

### 2 事業実施状況

#### (1) 生活援助

##### ①通いサービス

家庭的な雰囲気の中で、食事・入浴・排泄介助や個別の活動（食事準備、片付け、体操、ゲーム等）を提供した。また固定された時間ではなく、利用者・家族の状況や希望に合わせた時間でのサービス提供を実施した。

##### ②泊りサービス

通い慣れたなじみの場所で安心して宿泊していただけるよう、個々の生活リズムに配慮しながらサービス提供を実施した。

##### ③訪問サービス

通い・泊りサービスと同じなじみの職員が自宅に出向き、排泄介助・生活援助・安否確認等のサービス提供を実施した。

#### (2) 地域との交流

地域社会の一員としてあすなろサロン開催をはじめ、地区花見会・夕涼み会・お祭りへの参加、中学生職業体験受け入れなど様々な形で地域との交流に努めた。

#### (3) 会議

職員会議、個別処遇会議（ミーティング）など、業務の適正化や援助の方針、サービス計画の検討などのため各種会議を行った。また、地域の代表者等を委員とし、地域からの様々な評価・要望・助言を伺いサービスの質の確保を目的とした運営推進会議を開催した。

#### (4) 研修

専門技術・知識の習得と資質の向上を目的として、各種外部研修へ参加し事業所内部研修を実施した。

#### (5) 防災対策

地域住民協力のもと年 2 回避難訓練を行った。



(6) 行事等

月	内 容
4	地区花見会参加、あすなろサロン
5	第1回運営推進会議、清流オリンピック見学、避難訓練、あすなろサロン
6	内部研修、あすなろサロン
7	第2回運営推進会議、内部研修、あすなろサロン
8	熊野神社大祭参加、新里中職業体験、地区夕涼み会参加
9	第3回運営推進会議、敬老会（あすなろサロン）、内部研修
10	内部研修、新里まつり見学、避難訓練（あすなろサロン）
11	第4回運営推進会議、あすなろサロン、内部研修
12	地区忘年会参加、クリスマス会、あすなろサロン
1	第5回運営推進会議、みずき団子作り（あすなろサロン）、内部研修
2	内部研修、あすなろサロン
3	第6回運営推進会議、部落役員会参加、ひな祭り、あすなろサロン

3 利用状況等

(1) 月別登録者状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
登録者数	22	22	24	22	22	22	20	20	20	20	20	20	21.1

(2) サービス利用状況

	登録人員	通い	訪問	泊り	その他
実人数	254	237	115	139	165
延べ人数	8,407	3,915	3,199	1,293	
1日平均	23.0	10.7	8.8	3.5	

(3) 介護度別利用状況

要支援1	0	要介護3	92 (7.6)
要支援2	0	要介護4	84 (7.0)
要介護1	2 (0.2)	要介護5	16 (1.3)
要介護2	67 (5.5)	介護度平均	3.2
( )内は月平均			

(4) 地区別利用状況

茂市地区	45 (3.8)	刈屋地区	79 (6.6)
腹帯地区	36 (3.0)	和井内地区	74 (6.1)
曇目地区	18 (1.5)	その他地区	0 (0)
( )内は月平均			

## 平成 27 年度居宅介護支援事業所事業報告

### 1 基本方針

事業所は利用者が可能な限り在宅において有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう配慮し、利用者の心身の状況、その置かれている環境に応じて、利用者の選択に基づき適切な保健、高齢支援サービスが総合的かつ効率的に提供されるよう支援することを目的とし、利用者とその家族との深い信頼関係を構築するとともに利用者の意思および人格を尊重し、常に利用者の立場に立って、提供されるサービス等が特定の種類又は特定の居宅サービス事業者に偏ることのないよう、公正中立なサービス提供に努めた。

### 2 重点事項

#### (1) 居宅サービス計画の支援

- ① 利用者の居宅を訪問し、利用者および家族に面談して情報を収集し、課題整理総括表を用いて解決すべき課題の把握（アセスメント）に努めた。
- ② 指定居宅サービス事業所等に関するサービス内容、利用料等の情報を提供し、サービスの選択を行っていただくよう努めた。
- ③ 利用者の目標とする生活に対し、提供されるサービスの内容、その達成時期、サービスを提供する上での留意点を盛り込んだ居宅サービス計画の原案作成を行い、説明と同意をいただくよう努めた。

#### (2) 経過観察・再評価

- ① 利用者宅を毎月訪問し、経過観察（モニタリング）、定期的に評価を実施し、状態の変化に応じて居宅サービス計画変更、要介護区分変更申請等必要な支援を行うよう努めた。

#### (3) 秘密保持・個人情報

- ① サービスを提供する上で、サービス担当者会議等において文書で予め利用者及び家族の同意を得ない限り個人情報を用いることなく、秘密保持を厳守し、保護に努めた。

#### (4) 連絡・調整

- ① サービス担当者会議において地域の保健・医療、サービス提供事業者等各関係機関との連携を図り、より良いサービスの提供に努めた。
- ② 利用者の入退院時、情報共有シートを活用し、医療とのスムーズな連携に努めた。
- ③ 居宅サービス計画の目標に沿ってサービスが提供されるよう指定居宅事業所等との連絡調整を行うよう努めた。

#### (5) 給付管理

- ① サービス計画の内容に基づき毎月給付管理票を作成し適正な給付管理に努めた。

#### (6) その他

- ① 介護保険施設等への入所を希望した場合は、介護保険施設等の紹介その他の支援に努めた。
- ② 研修会等へ参加し、ケアマネジメントの充実と質の向上に努めた。
- ③ 災害時における利用者の安否確認に努めた。
- ④ 事業所内で情報共有し、利用者への継続した支援が出来るよう努めた。

### 3 年間報告

#### (1) ケアプラン作成件数

	登録者数	ケアプラン作成数	介護予防プラン作成数
4	84	73	1
5	85	72	2
6	87	76	2
7	72	65	2
8	81	77	3
9	77	68	4
10	78	63	4
11	79	69	4
12	72	63	4
1	74	65	4
2	74	63	4
3	76	64	4
合計	939	818	38

#### (2) 認定調査件数

	更 新	区分変更	計
要介護	57	6	63
要支援	3	0	3
計	60	6	66

#### (3) 会議・ケアマネジメント部会・各種研修会

	回数	参加述べ人数
地 域 ケ ア 会 議	6	6
ケアマネジメント部会	12	14
各 種 外 部 研 修 会	13	18
内部研修会・委員会等	29	38

## 平成 27 年度在宅介護支援センター事業報告

### 1 基本方針

要介護高齢者および要援護となるおそれのある高齢者や家族を対象に、その福祉の向上を図るため要援護高齢者の実態把握につとめ、地域の高齢者やその家族からの相談に応じ、必要な保健・福祉サービスが受けられるように行政機関・サービス提供機関・居宅介護支援事業所等との連絡調整を行い支援に努めた。

### 2 重点事項

#### (1) 総合相談支援事業

- ① 来所・訪問等による初期相談支援のほか、必要に応じ継続的相談支援を行い、相談記録を整備するよう努めた。
- ② 利用者基本情報等を活用し、相談記録を整備するよう努めた。

#### (2) 日常の連絡調整

- ① 利用者、サービス提供事業者等の連絡に随時対応するよう努めた。
- ② 必要に応じ、宮古市地域包括支援センターに報告するよう努めた。

#### (3) 実態把握調査

- ① 要援護高齢者等の基礎的事項、サービス利用状況、相談内容等の実態把握に努めた。
- ② 当該年度初回相談時、状況変化があった場合に実施するよう努めた。  
(要介護認定者についても毎年 1 回は実態把握調査を行うよう努めた。)

#### (4) 巡回相談会等の開催

- ① 地域に出向いて気軽に相談できる場を設定し、地域に潜在している相談ごとを掘り起こし相談支援を行うよう努めた。
- ② 多くの市民が参加できるよう地域のニーズに合わせて開催するよう工夫するよう努めた。
- ③ 在宅介護支援センターが行う他の事業と併せての開催や、介護者同士の情報交換の場としての開催など工夫するよう努めた。
- ④ 担当地区内に被災者が居住している場合には、被災者の参加にも配慮して開催するよう努めた。

#### (5) その他総合相談支援業務の実施に係る業務

- ① 福祉用具および介護用品の展示や紹介を行うよう努めた。
- ② 本人・家族・近隣住民・地域のネットワーク等を通じた様々な相談を受けて的確な状況把握を行い、専門的または緊急の対応が必要かどうか判断し、専門的・継続的な関与または緊急の対応が必要と判断した場合には、詳細な情報収集を行い、課題を明確にし、個別の支援、対策を行うよう努めた。

#### (6) 配食サービス

- ① 調理が困難な独居及び高齢世帯等の在宅高齢者もしくは心身の障害か傷病者等に対して、食事を提供するとともに、当該利用者の安否確認を行うことにより地域社会の中で引き続き生活して行くことを支援し、高齢者の保健福祉の向上を図るよう努めた。
- ② 衛生管理に十分注意を払い、事故のないよう努めた。

### 3 年間実績報告

#### (1) 相談件数

相談経路別件数			相談方法件数			
家	族	807	電	話	1,133	
本	人	584	訪	問	109	
関	係	機	来	所	969	
民	生	委	文	書	14	
そ	の	他	そ	の	他	65
計		2,290	計		2,290	

#### (2) 相談内容別件数

介護に関する相談	6	状況把握	1,163
医療に関する相談	46	諸制度に関する相談	10
介護保険に関する相談	1,005	苦情に関する相談	1
高齢福祉サービスに関する相談	42	健康づくり保健事業に関する相談	5
施設入所に関する相談	30	その他	23
福祉用具に関する相談	31	-	-
住宅改修に関する相談	0	計	2,362

#### (3) 実態把握調査件数

要介護者・要支援者	87
特定高齢者	6
計	93

#### (4) 巡回相談状況

事業名	日時・場所	内容	延べ人数
カフェいっぷく	毎月第3木曜日 桐の花地域交流スペース	ラジオ体操・タオル体操等	153人
認知症サポーター養成講座	平成27年9・10月 旧新里5地区	認知症の理解	150人
出前講座	基幹集落センター・6月 福祉センター・9月	しっかり食べて低栄養予防 地域で学ぼう転倒予防	21人

#### (5) 配食状況

延登録者数	延配食数
61	1,019

### 4 会議等への出席状況

月日	会議等名
平成27年4月20日	地域包括在宅支援センターランチ会議
5月28日	介護予防教室リーダー研修会
平成28年2月9日	介護予防教室リーダー研修会

## 平成 27 年度 工房まんさく就労継続支援(B型)事業所 事業報告

工房まんさく就労継続支援(B型)事業所は、障がい者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の基に、就労や生産活動の機会を提供し利用者の立場に立ったサービスを提供することを目的とし事業を展開した。

事業の実施にあたっては、総合的に利用者の支援ができるよう関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービス機関との連携を図った。

### 1 事業の概要

#### (1) 事業種類

就労継続支援B型

#### (2) 事業規模

利用定員 20 名

登録者数 21 名 (年度末)

### 2 事業の実施状況

#### (1) 生活訓練

- ① 基本的な生活習慣を身に付けることを目的に、また一人暮らしの利用者が増えて来ていることなどを考え調理実習を行った。
- ② 仲間作りを通じ、思いやりを学ぶために誕生者のいる月に誕生会を開いた。

#### (2) 授産訓練

- ① 社会復帰に向け働く意欲、また一人ひとりに合った作業を提供し生活の糧を知る喜びを学ぶということを目的に、受注作業や自主作業に取り組んだ。
  - ・清掃作業（紫桐苑、無人駅・バス停の掃除、）
  - ・ベッドメイキング作業（紫桐苑）
  - ・「喫茶こびり」、「カフェいっぷく」出前喫茶で参加
  - ・草刈り、草取り作業（宮古市保健課、個人宅）
  - ・イベント参加（納涼祭、まんさく祭り、新里まつり、玄翁館祭り）
  - ・フローアカタログ製作作業（榎カリヤ）
  - ・手ぬぐい掛け、箱作り作業など（内田販売システム）
  - ・リサイクル回収作業

#### (3) 社会参加促進

- ① 地域行事への参加やボランティアの方々との交流などを通じ社会参加を促した。
- ② 親睦事業の企画・運営に参加し、社会性を身につけた。

(4) 行事、職員研修実施状況

①年間行事

月	内 容
4	・調理実習 ・誕生会 ・お花見昼食会 ・出前喫茶（カフェいっぷく）
5	・調理実習 ・誕生会 ・出前喫茶（カフェいっぷく）
6	・調理実習 ・出前喫茶（カフェいっぷく） ・家族会「やまびこの会」と交流研修会 ・被災地障がい福祉サービス支援事業に係る第1回中案検査
7	・誕生会 ・出前喫茶（カフェいっぷく、喫茶こびり）・紫桐苑納涼祭参加 ・避難訓練 ・宮古圏域障がい者スポーツ交流会参加
8	・誕生会 ・出前喫茶（カフェいっぷく、喫茶こびり）
9	・誕生会 ・出前喫茶（カフェいっぷく、喫茶こびり） ・さんま焼き昼食会 ・実習生受入れ（恵風支援学校） ・第16回宮古市障がい者スポーツ大会参加
10	・誕生会 ・出前喫茶（カフェいっぷく、喫茶こびり） ・まんさく祭り ・実習生受入れ（恵風支援学校） ・新里まつり参加 ・新里生涯学習センター祭り参加
11	・出前喫茶（カフェいっぷく、喫茶こびり） ・四つ葉の学校（旧村内小学六年生） 交流学習会 ・被災地障がい福祉サービス支援事業に係る第2回中間検査
12	・誕生会 ・出前喫茶（カフェいっぷく、喫茶こびり） ・クリスマス会
1	・調理実習 ・誕生会 ・出前喫茶（カフェいっぷく、喫茶こびり）
2	・調理実習 ・誕生会 ・出前喫茶（カフェいっぷく、喫茶こびり）
3	・調理実習 ・誕生会 ・出前喫茶（カフェいっぷく、喫茶こびり） ・お雛さま昼食会 ・自衛消防避難訓練

②職員研修

月	内 容
4	・新任職員研修会 ・ケア会議
5	・工賃向上計画研修会 ・障がい福祉サービス事業者連絡会 ・ケア会議
6	・第1回職員スキルアップ勉強会 ・ケア会議
7	・障がい者の虐待防止研修会 ・職場で障がい者を理解する学習、相談会 ・障がい福祉合同研修会 ・障がい福祉サービス事業者連絡会 ・ケア会議
8	・第2回職員スキルアップ勉強会 ・子育て講話&育ちの相談会、発達障がい外来から見えること ・宮古圏域生活支援セミナー ・いきいきフェア研修会 ・ケア会議
9	・福祉職員リーダー研修会 ・宮古圏域セミナー ・障がい福祉サービス事業者連絡会 ・ケア会議
10	・強度行動障がい支援者養成研修 ・ケア会議
11	・第3回職員スキルアップ勉強会 ・障がい福祉サービス事業者連絡会 ・ケア会議
12	・あんしんサポート相談員研修 ・ケア会議
1	・あんしんサポートワーキンググループ会議 ・精神障がい者支援に係る研修会 ・障害者への理解、心の出前講座 ・障がい福祉サービス事業者連絡会 ・ケア会議
2	・平成27年度宮古市防災士養成研修講座 ・平成27年度いきいき交流研修会 ・ケア会議
3	・地域公益活動推進事業準備会情報交換会 ・障がい者総合支援法に係る国主催会議伝達 説明会 ・障がい福祉サービス事業者連絡会 ・ケア会議

